

第4期第8回生涯学習センター運営協議会要旨

〔日 時〕 2019年2月25日（木）午後3：00～5：00

〔場 所〕 生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、岩本 陽児（副会長）、太田 まゆみ、大野 浩子、白崎 好邦、
鈴木 忠道、陶山 慎治、辰巳 厚子、中里 静江、古里 貴士、向井 美子、米倉 茂
以上 12名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、松田事業係長、齊藤主任（記録）

〔傍聴人〕 3名

〔資 料〕 ・2018年度下半期事業報告(公民館事業)【資料1】
・2018年度下半期事業報告(市民大学)【資料2】
・2018年度下半期事業報告（ことぶき大学）【資料3】
・2018年度下半期事業報告（推進事業）【資料4】
・東京都公民館連絡協議会の活動について【当日資料】

1 報告事項

（1）センター長報告

・障がい者青年学級の事業では、毎年度1年間の学級生の活動の集大成ということで、成果発表会を行っており、今年度も2月23日に土曜学級、昨日24日にひかり学級の発表会を実施した。3月3日（日）に公民館学級の発表会を行う。この1年間の活動への想いが込められた発表の場なのでご覧いただきたい。

・定例の市議会が始まった。詳細は次回ご報告いたしたい。

（2）東京都公民館連絡協議会の活動について

委 員：平成31年2月3日（日）に東大和市立中央公民館で、第55回東京都公民館研究大会が開催され262名が参加した。委員部会では第4課題別集会を企画し、2市の事例発表に加え初めての試みとしてポスター発表も行った。90名が参加し活発なグループ討議が行われた。

会 長：テーマは「公民館講座受講後の展開～学びを活かして活動するには～」であったが、ポイントは何か。

委 員：ポイントの一つとしては、サークル活動を始めるにあたって、職員のフォローが重要であるということが話題となった。

会 長：運営委員会から4名の参加があったが、その他の参加者の感想を伺いたい。

委 員：基調講演では東大の教授の牧野篤氏の講演があった。ポイントとしては、昔と比べ

て平均寿命が延びた結果、最後の子どもが成人してから猛烈に長い期間を我々がどう過ごすかという、ライフスパンの変化による余暇時間の問題への指摘があった。同時に今の日本で進行している二極化についての説明も印象的であった。従来は中間層が厚いということが、戦後日本の社会教育の基盤になっていたが、今日、困っている人に対する教育支援を社会教育でどう行っていくのか、ということを考える一つのきっかけを提供してくれたと思う。

委員：第4課題別集会に参加させていただいたが、グループ討議の中で、各自治体でうまく受講後にサークル化が出来、そのサークル同志が結びついて連鎖して大きな活動になっているという話に感銘を受けた。また、グループ討議であげられたキーワードで印象的だったのは、(公民館の役割としての)「居場所」、「発信・PRの大切さ」、「発信の連鎖が必要」ということ、そして「継続の重要性」等であった。私自身参加して非常に勉強になった。

会長：基調講演では、「どうなる？どうする？社会教育～連携・協働・参加の成果を発信しよう～」というテーマで、牧野先生の話をお聴くのは私自身5回目となるのだが、今回特に腑に落ちた内容としては、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりということが、社会教育の一つの役割であるという説明があり、社会教育の専門性・固有性、これをもっと易しく言うと「社会教育に目的はない。ただ社会教育がしっかりしていると目的が生まれる」という考え「一般行政は社会教育の基盤の上で有効に機能する。」敢えて言えば「社会教育は社会を永続させるための営み」という風にお話になりました。「ただし条件がある。それは地域コミュニティの住民自治がしっかりしていること」すなわち教育行政の自立性を担保するための住民の関わりがあること、これが重要ということも述べられていて、行政や教育委員会がやっていることへの市民の監視の目や意見がちゃんと伝えられるような仕組み作りが大事で、そういうことから言うと、この運営協議会はその一つであると感じた。ここでの議論を教育行政、地域の行政の中に反映させていくということが重要だと感じた。

第1課題別集会では「社会教育関係団体に地域への貢献は求められるべきか」というテーマであった。つまり、趣味的な活動だけでいいのか、地域に何らかの貢献をしなければいけないのではないかと、という問題意識である。80人程が5、6人のグループで討議をおこなった。首都大学東京教授の荒井先生が助言者として、文科省の組織改正で社会教育という名称が無くなった話や、それぞれの自治体によって社会教育の予算が縮小傾向にあるといった難しい状況にある話や、こういった施設は学習権の保障のために存在するのでそれをいかにそれぞれが守っていけるかという話が前段にあり、それを受けて3つ課題が出た。

- 1) 自由な学びを保障されていれば自分の趣味に没頭するだけでもいいか。
- 2) 利用者同士が相互に関わり合い、地域への貢献や公共活動を求めるべきか
- 3) 会の運営が講師に依存している教室的活動を看過してよいか。

この3つの命題についてそれぞれ1つ取り上げてグループが討議した。私は「講師に依存している教室的活動を看過してよいか」というテーマで話し合ったのだが、講師（定義：業としてやっている）が、職業としてやっているというのは公民館で認めていいかということに関しては、全体としては否定的であった。施設の有料か無料かによっても変わり、無料の施設には強い抑制が働くが、有料施設ではもう少し緩和されるが、判断基準のボーダーラインがあって、その判断は誰がすべきか、職員がすべきか、市民がすべきか、という考え方については、どちらかという職員は自分達がやるべきという意識があり、市民は自分達なりに判断したいという意見が相半ばした。講師の先生は市民がやるべきという話があった。非常に色々と考えさせられる内容であった。

委員：補足すると、私のグループでは「職員の仕事」という強い意見が出た。それから、金曜日の夕方開催している「まなびテラス」のチラシを会場で配布し、町田の社会教育がいかにか先駆的であるかをPRしてきたが、反響が大きかった。

2 議題

(1) 下半期の事業報告について

(2018年度下半期事業報告(公民館事業)【資料1】より「まちチャレ」の説明)
(質疑・応答等)

会長：当初予定では4月募集分で年間の講座が決定するところ、8月に追加募集になったのはなぜか。

事務局：講座の申込みが少なかった。5講座分の予算があったので、夏に追加募集をした。昨年は10団体を超える応募があったが、ふたを開けてみると今年度は少なかった。説明会の段階では自分が講師になって何かやりたいという方が多く、それについては趣旨が違うということでお断りした。来年の取組みはもっと積極的に行おうということで、既にHPやチラシ等広報活動を早めに始めた。

事務局：まるごと大作戦と説明会の時期が重なり、予算的な面もあり、そちらに流れた可能性もあるかもしれない。

委員：成果と課題とあるが、2019年度に向けて対応はあるのか。例えば、保育付講座への対応はあるか。

事務局：昨年は保育付講座も行っていた。保育の予算の関係ではっきりしたことは申し上げられない。同伴を認める場合もあるかもしれないし、後半に予算の都合で保育付が可能になるかもしれない。

事務局：ここの課題に関しては、発達障害の講座で、お子さんの同伴はお子さんが嫌がるので保護者が講座に全部参加出来なかったという話もある。

委員：募集にあたっては領域を設定して募集したのでしょうか。

事務局：「講座づくりまちチャレ」では、昨年度実施の団体は応募ができない。また、領域についてだが、一つの講座に集中する可能性があるので、設定をしていない。地域開催の企画にはポイントを高くしている。

委員：ひきこもりの参加者が多かった。1講座の分を潰してでも保育付を行うといったような臨機応変な対応があっても良かったかもしれない。

委員：応募があった中で、開催地域については応募者とのすり合わせや調整はできるか。例えば「こちらの地域で開催してもらえないか」、とか。

事務局：それはヒアリングの段階でやっています。ここ以外でも開催出来る可能性について尋ねている。

委員：1年限りで翌年応募できないのはいかがなものか。川崎では3年まで応募できる。昨年の経験をもとにグループの成長が見込める。

事務局：1年あけて、テーマを変えて応募したいという声はある。

会長：市民ニーズにあった事業という意味では、このまちチャレは事業展開的には肝になる事業なので、PRに問題があれば考えていくし、1年限りで応募できないということに問題があればそこも考えていただくと良い。これがうまくいかなければ市民のニーズにあった事業というものなかなか難しいと思うので是非知恵を絞って、委員の方も市民の方に声をかけて出来るだけ市民のニーズを吸い上げるような活動をしてもらえればと思う。

(2) 家庭教育支援運営委員会の開催について

この運営協議会での事業報告をもって家庭教育支援運営委員会を開催するという事でご了承をいただきたい。都に開催の報告をもって補助金を受けている。

(2018年度下半期事業報告(公民館事業)【資料1】「家庭教育支援事業」の説明)

(質疑・応答等)

会長：生涯学習センターの廊下の壁面の掲示には、熱心な発表がなされ、内容が充実しているように伺われるが。あれは家庭教育支援事業のものか。

事務局：家庭教育支援学級やママゼミのもので、講師を招いての座学だけではなく、年間かけて皆さんで議論し合って意見をまとめていくという作業を行っているので、あのような掲示が出来上がっていく。

委員：この事業は全部センターで行っているのか。

事務局：保育室があるので、ここ生涯学習センターで行っている。

委員：子どもの事業こそ地域でやってはいかがだろうか。

事務局：去年、親と子のまなびのひろばを地域で開催したのだが、なるせ駅前市民センター以外は、地域で開催しても人が集まりにくかった。理由の一つに、子育てに関しては、各市民センターでもひろば事業をやっている。あまり差別化できない。利便性がある

ので、実は子育て推進課の事業をここでも行っている。子育て推進課と連携・役割分担が課題である。

委員：ひろばは市内全域で60か所くらいで行われており、かなり充実している。

会長：同じことをやっても仕方ないので、教育的なことを行うと良いと思う。

委員：講師の方が興味があってみていたが、講師の方は相談して決めていくのか。「未来を描くママの学校」のところで、子どもを守る力、応急手当で、NPO団体が講師をしているが庁内の消防の部署と連携して行うとかいった試みはあるか。

事務局：以前消防署にお願いして何度か開催したことはある。庁内の他部署との連携というのはある。予算内で収められる。

会長：情報交換も出来る。

(2018年度下半期事業報告(公民館事業)【資料1】より「障がい者青年学級」の説明)
(質疑・応答等)

委員：「障がい者青年学級」という名称は必要か。「障がい者」は必要か。

事務局：昔からの名称で続いているということである。くぬぎ学級とかアメンボ学級等の愛称を使用している自治体もある。

会長：ボランティアが少なくなっているのが課題か。

事務局：阪神淡路大震災前は学生が中心でボランティアを行っていた。学生の学校への関わりが変わってきていてゆとりもないのか、学生の割合は減っている。

会長：施設関係者に投げかけてみるというアイデアもありました。

委員：新入生13人の受入が全部受入れられない理由は何か。

事務局：受け入れ態勢としてのボランティアが少ないからである。ボランティアの数の問題が解決すれば学級生も増やすことが出来る。

(2018年度下半期事業報告(公民館事業)【資料1】より「その他の事業」の説明)
(質疑・応答等)

委員：ひき町の成果がすごい。平均32名の参加ということだが、次年度以降どういった実施運営を行うのか。

事務局：まずは、団体登録をしていただく。月に1回、「ゆどうふ」という団体 代表者・連絡者・会計の方を決め、仕事の引継ぎを始めている。

委員：登録の役員は当事者か。

連絡者：皆当事者である。自分達で活動する。ゆったりと、グループのメンバーの各自のペースで活動に参加する。

大野：登録団体になると、部屋は無料なのか。

事務局：登録団体として、部屋代がかかることとなる。

委員：学びテラスについて質問である。外国の方も対象なのか。

事務局：基本的に日本語が話せない外国の方には国際交流センターをご案内しているが、支援者の知り合いということで参加があった。

委員：この運営協議会で学びテラスをやっているというご案内はあったでしょうか。ショッパーで見て初めて気づいたのだが。

事務局：かつての運営協議会では企画の段階で報告をしていた。

委員：事後報告でもいいからあればよかったのでは。

事務局：2016年に教育機会確保法という法律が出来た関係で、昨年度2018年度3月に学びの機会を保障するにはという連続講座を開催したところ、自分達でも会を開きたいということで4月から準備を初め応募を開始し、8月から始まった。上半期の事業報告ではまだ事業が開始していなかったもので、下半期の事業として今回の報告となった。

会長：運営協議会としても応援したいので、情報をいただければと思う。

(2018年度下半期事業報告(市民大学事業)【資料2】より「市民大学 HATS」の説明)
(質疑・応答等)

委員：修了団体の人はこれから何をするのか。

事務局：自分達でコースを決め、親睦を深めながら歩く企画をしている。

委員：役所はフォローをするのか。

事務局：連絡調整のフォローを行った。

委員：「自然」についてですが、毎回場所が決まっている。活動の月も固定している。

事務局：2019年度は月に偏りがないように変更している。

岸由二先生のご講義だけでなく、グループワークも行い話合いや自然を守る話合いを行っている。最終回については、感動したという特別なお手紙も頂いている。自然とはかけ離れていないと思われる。

委員：市民大学全体について。たまたまその会に集まった人だけで修了者団体を作るとするのは難しく、限られた集まった人だけで、その中から気の合う人を集めるのはちょっともう限界ではないだろうか。受講した後どうするかは今後の課題だと思う。

できれば講義を聞くだけでなく参加型の講座にしたいという気持ちはよくわかるが、例えば人間科学の講座で、こんなに盛りだくさんのテーマでディスカッションするというのは大変無理があると思う。何を問題意識としてディスカッションするかは大変なことだと思う。もしディスカッションをするなら、ディスカッションするという練習が必要である。初対面で、難しい話題で振り返りをしたり、ディスカッションをするというのなら、ディスカッションの練習をする講座があってもいいと思う。その後の受講生の参画がやりやすくなるのではないか。

事務局：新しい団体は出来ればいいとは思いますが、既存の団体に入っただけというのもある。国際学の修了者団体に講座終了後アピールしていただいたりもしている。

委員：問題意識があつてこそサークル化出来るので、もっと問題を深めてみたいと思えるように講座に仕掛けをつくるべきである。

会長：「自然入門」で新しいグループが出来たというのは、近年極めて稀な例ではないか。

委員：そういう団体には是非まちチャレにつなげていただくと良いのでは。

会長：「こころとからだの健康学」もこれが核になり、つなげていければ。

委員：自分達が楽しかった、で終わってしまう。引っ張っていく誰かがいるとは限らない。職員のサポートが重要となる。2019年度のプログラムは出来ているので、そちらの案内がもっとあつても良いと思う。

(2018年度下半期事業報告(ことぶき大学事業)【資料3】の説明。)

会長：探・探ゼミナールの成果報告集をお配りした。3~4か月しか無い中、皆さん図書館で良く調べていた。チューターの先生も数名いらした。私も参加したが皆さん意欲的に学ばれていた。

(2018年度下半期事業報告(生涯学習推進・施設貸出事業)【資料3】の説明。)

(質疑・応答等)

委員：2019年度も同じように生涯学習 NAVI を発行するのか。3か月でゴミになる。誰がみても400円をタダで置いてあつて、残部数ゼロ部ということはある得ないと思うが。

事務局：4,200部は足りないところには追加を、残部が出たところには次回の配布数を調整している。

委員：それ自体が無駄だと思われる。それから、事業報告には新たな指標・尺度を入れて頂きたいと9月の会議でも申し上げたはずだ。例えば新規受講者率は何パーセントか等、例えばそういうようなことを尺度として入れるべきであると申し上げた。生涯学習センターに対する認知度が低いとされている現状を踏まえれば、ここでの事業報告というものは「回数を重ねるごとに、多くの市民に、新たに受講をしてもらえて、認知度が向上しています。」といった報告をしてもらわないと困る。応募倍率が1.0倍以上といった企画は企画ミスである。どのような効果をもたらすかを考えてやってもらいたい。参加者の感想は、参加出来た限られた範囲の人のもので、そこに既にバイアスがかかっていることを認識されたい。

会長：市民大学やことぶき大学に関してのご意見で、前回もいただいた内容であるが、これに関しては今後も見守っていきたい。

あらためて、生涯学習推進事業・施設貸出事業に対するご意見をうかがいたい。

委員：施設貸出事業について、消費税増税に伴い使用料は上がるのか。

事務局：市全体の方針であるが、10月に消費税が上がった際には使用料も条例改正をして値上げする事が12月議会で通過しており、館内掲示とHPへの掲載で周知をしてい

る。

委員：利用料が高いため利用率が低いのではないと思うのだが、免除制度は設けないのだろうか。

会長：確かにかなり高くなってきた実感はある。どこの団体のどの企画は免除するということを決めるのはなかなか難しいことだと思うが、引き続きご検討いただきたい。

委員：PRチラシの作成について、認知度が低くなったのは、公民館という言葉を使わなくなったということも原因の一つにあると思う。作成されているPRチラシに「まちだ中央公民館」という名称も入れて、転入者に配布するとよいのではないだろうか。

3 その他

- ・事務局より、3月20日開催の学生活動報告会のチラシを配布したので、ご出席いただきたい。
- ・次回は4月22日の3時から5時。次々回は6月29日火曜日午前中10時でお願いしたい。都合の悪い方が固定化しないように事務局で調整した。
- ・生涯学習センター運営協議会の副会長及び委員1名の退任について。

委員：生涯学習センターの運営協議会委員として活動してまいりました。引き続き皆さん頑張って市民の声を届けて、いい行政が実現できるようにサポートしていただきたいと思います。長い間お世話になりました。

委員：市民大学ではプログラム委員から携わっているので、もう10数年経つ。市民大学については非常に思い入れがある。これからの方には、少しずつ市民大学の改善もお願いして、市民にとって何が必要なのかを考えていていただきたい。ありがとうございました。

- ・2名の後任は次回開催までに決定する予定である。
- ・副会長は、生涯学習センター運営協議会の推薦を受けて、町田市生涯学習審議会委員でもあった。
- ・町田市生涯学習審議会委員の後任は柳沼会長にお願いしたいということで、運営協議会の承認を得る。